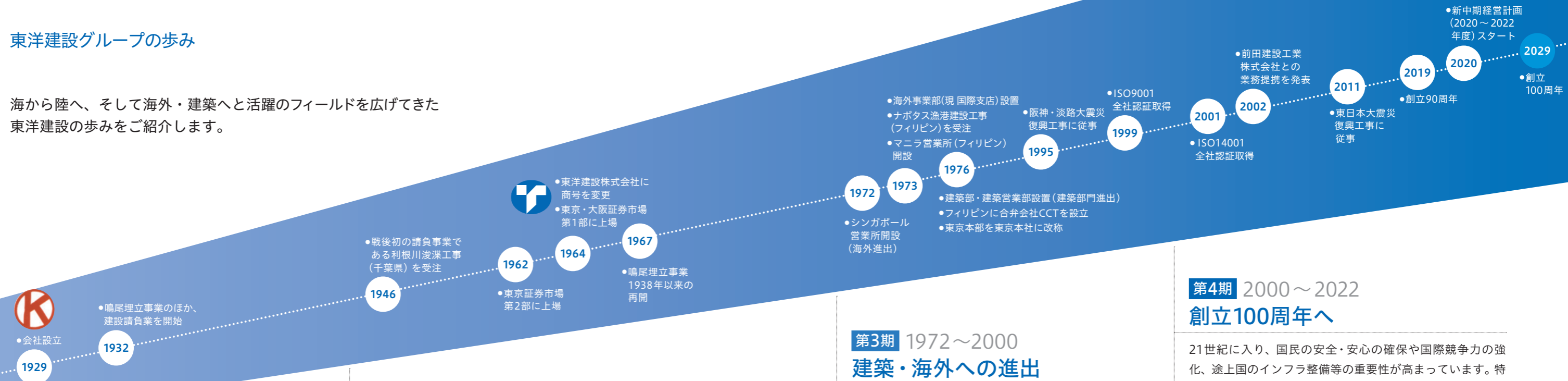


海から陸へ、そして海外・建築へと活躍のフィールドを広げてきた東洋建設の歩みをご紹介します。



第1期 1929~1945 会社の設立と請負事業への進出

1929年7月3日、兵庫県武庫郡鳴尾村(現 西宮市)の沖合いを埋め立て、一大工業団地を造成することを目的に、山下汽船(現(株)商船三井)と南満州鉄道の共同出資により、阪神築港株式会社として設立されました。鳴尾埋立事業は1933年10月に着工しましたが、日中戦争の勃発により中断を余儀なくされました。その後、保有する浚渫船等を活用するために請負事業に進出し、佐伯航空隊敷地埋立工事を短期間で完成させたこと等から信用が高まり、終戦までに埋立・浚渫工事業界において屈指の地位につきました。



初代社長 山下亀三郎



当時の埋立計画図



佐伯航空隊敷地埋立工事(大分県)

第2期 1945~1972 浚渫・埋立ブームの到来

終戦を迎えると一転して経営は大変厳しい状況に陥りましたが、1946年に利根川流域の治水工事を受注したことをきっかけに、苦境を脱しました。1960年頃からは港湾整備予算が増加し、いわゆる「浚渫・埋立ブーム」が到来、当社も岡山県水島港等我が国の高度成長の基盤となる臨海工業地帯の埋立事業に数多く参画しました。

戦前に中断していた鳴尾埋立事業は、関係先との協議を経て1967年に再開し、1976年に最終工区の埋め立てが完了しました。事業の途中で経済情勢の変化等のため土地の販売に苦勞しましたが、1982年に販売が完了しました。この埋立地は「鳴尾浜」と命名され、現在多くの企業が立地しています。



利根川浚渫工事



鳴尾埋立事業の状況(1972年4月)



現在の鳴尾浜(兵庫県)

第3期 1972~2000 建築・海外への進出

マリコンとしての確固とした地位を築いた当社は、1972年に海外事業に進出します。特にフィリピンは日本の建設会社のなかで最も古い歴史があり、当社の海外事業の最重要拠点となっています。また、1976年には建築事業に進出し、総合建設業者へと成長を遂げていきました。

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、関西発祥の会社として、神戸港の早期復旧・復興に中心的な役割を果たしました。



チャンギ埋立工事(シンガポール)



ロワジュールホテル那覇(沖縄県)



六甲アイランド緊急岸壁復旧工事(兵庫県)

第4期 2000~2022 創立100周年へ

21世紀に入り、国民の安全・安心の確保や国際競争力の強化、途上国のインフラ整備等の重要性が高まっています。特に近年は自然災害が多発しており、減災・防災への取り組みが大きなテーマとなっています。当社は、これからも高い技術力を発揮し、国内外で多様化する社会基盤整備に貢献し続け、皆様の期待に応えることのできる会社として100周年を迎えるよう努力してまいります。



東京国際空港D滑走路建設外工事(東京都)



函館港若松地区岸壁工事・泊地浚渫工事(北海道)



海の森水上競技場(東京都)



鳥取市新本庁舎新築工事(鳥取県)



モンバサ港コンテナターミナル開発工事(ケニア)



ラックフェン港航路浚渫工事(ベトナム)